

政策評価シート（平成30年度実績評価）

◎ 政策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策№.	3-5	政策名	芸術文化の振興	政策の 目指す姿	地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます	政策 主管課	文化財課	政策主管 課長名	平野克則
	政策の方針	市内の芸術文化を振興させるためには、市民が地域の歴史や文化、先人の理解を通じ、芸術文化に親しむことのできる環境づくりが必要です。 そのために、身近な場所で芸術文化に触れることができる機会を拡充するとともに、先人を顕彰し、その功績が理解されるように取り組みます。また、文化財の適切な保護や活用を図るとともに、地域に伝わる民俗芸能の伝承を支援します。								

2 成果指標の達成状況

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	区分	H27 (基準年度)	H29	H30	R1	R5
この1年間に芸術文化活動を行った市民の割合	芸術文化に親しみ、深い知性を持ち心豊かな市民となるため、具体的行動として芸術文化活動を行っている市民の状況を示す指標	出展：花巻市(市民アンケート) 問：あなたは、芸術文化の活動をどの程度行っていますか。 (1)週に2回以上 (2)週に1回程度 (3)月に1回程度 (4)年に数回程度 (5)ほとんど行っていないのうち、(5)以外を選択した市民の割合	%	目標値		30.0	30.0	30.0	40.0
				実績値	21.0	23.7	23.7	-	
この一年間に芸術鑑賞をした市民の割合	芸術文化に触れ(芸術鑑賞)、親しんでいる市民の状況を示す指標	出展：花巻市(市民アンケート) 問：あなたは、この1年間に市内外を問わず芸術文化の鑑賞への位足を運びましたか。 (1)10回以上 (2)5～9回 (3)1～4回 (4)0回のうち(1)(2)(3)を選択した市民の割合	%	目標値		70.0	70.0	70.0	80.0
				実績値	66.3	65.4	66.7	-	
郷土の歴史・文化に対する誇りや愛着を持つ市民の割合	地域の歴史や文化、先人など、地域・郷土に対する市民の誇りと愛着度を示す指標	出展：花巻市(市民アンケート) 問：あなたは、郷土の歴史や文化に誇りや愛着を持っていますか。 (1)持っている (2)どちらかというを持っている (3)どちらかというを持っていない (4)持っていない (5)どちらともいえないのうち(1)(2)を選択した市民の割合	%	目標値		67.0	67.0	67.0	70.0
				実績値	66.8	67.3	68.8	-	
達成度	[達成状況に関する背景・要因]								
C	<ul style="list-style-type: none"> ・1件は目標値を達成し、2件は達成していないが数値は微増している。 ・市民アンケートの対象となる年齢層においては、芸術文化活動や芸術鑑賞をした市民の割合は目標値より低いですが、芸術文化活動の導入期である児童期においては、興味を持っている児童は多く、小学生アートセミナーは定員を上回るほど受講希望者がおり、参加者アンケートでもその満足度は高くなっている。 ・郷土の歴史や文化に誇りや愛着を持つ市民の割合は、10代は高いものの20代が低く、以降年齢が上がるに従い高くなる傾向にある。長年の居住から愛着を持つ市民が多くなることや、定年等により地域の歴史・文化活動への参加機会が増えることが要因と考えられる。 								

3 政策に対する各施策の達成度

No.	施策名	成果指標名	H27 (基準年度)	H29			H30			R1		前年実績との比較	達成度
			現状値	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	見込み		
1	芸術文化活動の推進	市民芸術祭参加者数・入場者数(人)	11,112	12,000	14,591	a	12,000	13,736	a	12,000		↘	A
2	先人の顕彰	この一年間に宮沢賢治記念館等の市内の先人顕彰施設を訪れたり、郷土の先人に関するイベントに参加した市民の割合(%)	30.0	32.0	30.4	c	34.0	32.7	a	36.0		↗	D
		日常生活の中で宮沢賢治の作品や考え方に触れる場があると思う市民の割合(%)	63.0	66.0	63.6	c	67.0	59.7	c	68.0		↘	
3	文化財の保護と活用	この一年間に博物館等の市内の文化財関連施設を訪れたり、文化財に関する講座・セミナー等に参加した市民の割合	20.5	25.0	19.7	c	25.0	21.4	c	25.0		↗	D
4	民俗芸能の伝承	郷土芸能団体数(団体)	96団体	96団体	96団体	a	96団体	96団体	a	96団体	96団体	→	A

4 政策の総合的な評価

評価区分	政策の課題と要因
C-③	<ul style="list-style-type: none"> 参加者や受講生が固定化／継続化している傾向があること、情報発信が不十分で知名度が劣っていると施設があること等の理由で、成果指標の低下に繋がっていると分析がなされていることから、内容を吟味し事業を再構築すること及びSNS等を活用して広報誌以外のPR活動を積極的に行うことが必要である。 郷土の歴史や文化に誇りを持っている市民は、徐々に増えているが、文化財関連施設を訪れる市民の割合は、低調のまま推移している。高めていくためには、文化財関連施設において話題性のある特別展・企画展を開催するほか、時流に乗った内容の講座メニューを開発するなど、市民に興味を持ってもらう取り組みが重要である。

やや遅れている

成果指標達成度	A				
	B				
	C		☆		
	D				
		④	③	②	①
		政策に対する施策の達成度			

5 政策を構成する施策一覧

1	施策名	芸術文化活動の推進	施策の成果指標の達成状況	H29	A	H30	A
	[課題]	芸術文化推進事業のうちはなまきまごと芸術のまち事業は事業内容を検証するとともに、周知方法を検討する必要がある。					
	[今後の方向性]	はなまきまごと芸術のまち事業は、市所蔵美術品のデータベースを整理して、作品毎の所縁を把握するとともに、作品を企業等に貸し出した際の、借用した企業等の効用効果を吟味する。その上で本事業を再構築する。					
2	施策名	先人の顕彰	施策の成果指標の達成状況	H29	B	H30	C
	[課題]	<ul style="list-style-type: none"> 賢治まちづくり推進事業では、参加者や受講生が固定化／継続化している傾向にあることや情報発信が不十分であることから、成果指標の実績が低下していると分析しているため、事業内容やPR活動の見直しが必要である。 新渡戸記念館企画展示事業では、アンケート調査では、展示内容及び施設環境には肯定的な意見が多いが、知名度が劣っているという分析がなされていることから、市内外に対して様々な媒体や機会をとらえてPRしていく必要がある。なお、積極的なPRは、新渡戸記念館のみならず市内全般の先人顕彰施設でも連携して行う必要も感じている。 					
	[今後の方向性]	<ul style="list-style-type: none"> 賢治まちづくり推進事業では、新たな受講生を獲得するために、内容を吟味し事業を再構築する。 新渡戸記念館企画展示事業では、知名度が劣っているという分析がなされていることから、SNS等を活用するなど、広報誌以外でのPR活動を増やす。併せて他の先人顕彰施設とも連携してPR活動を行う。 					

	施策名	文化財の保護と活用	施策の成果指標の 達成状況	H29	D	H30	D
3		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財に対する市民の関心や認知及び保護に対する理解が十分に浸透していないことから、向上させる手立てが必要である。 市民ニーズにあった講座や体験学習メニューを企画する必要がある。 企画展は、花巻の歴史や文化に興味と親しみを感じ、身近なものと捉えてもらう内容とする必要がある。 入館者数は、特別展・企画展の内容に左右される面があるため、多くの人が関心を持っている内容で開催する必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「文化財保存活用地域計画」作成に向けた、コミュニティ会議単位の住民参加型文化財調査ワークショップの開催を通じて文化財への関心を喚起する。 講座や体験学習会の参加者に対し、受講感想のほか、今後、実施を希望する内容に関するアンケートを行う。 企画展は、花巻市内にある遺跡や自然、営み、偉人など身近に感じられる内容や懐かしく感じる内容で企画を精選する。 特別展は、全国的に話題性のある内容や時流に乗ったものとし、多くの参観を得る企画とする。 					
4		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能団体の多くが「後継者不足」と「構成員の高齢化」を課題としており、後継者づくりを民俗芸能団体と共に検討していく必要がある。 伝承への意識づけと、練習するきっかけとなる「披露する場」をより多く創出する必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能団体との意見交換会を開催し、後継者育成と確保のため各団体が取り組んでいることや考えていることの情報交換を行う。 市教委が主催する郷土芸能鑑賞会や青少年郷土芸能フェスティバル等への出演団体数を増やすことを検討するほか、出演依頼する際は、出演実績の少ない団体の掘り起こしに務める。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能団体の多くが「後継者不足」と「構成員の高齢化」を課題としており、後継者づくりを民俗芸能団体と共に検討していく必要がある。 伝承への意識づけと、練習するきっかけとなる「披露する場」をより多く創出する必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能団体との意見交換会を開催し、後継者育成と確保のため各団体が取り組んでいることや考えていることの情報交換を行う。 市教委が主催する郷土芸能鑑賞会や青少年郷土芸能フェスティバル等への出演団体数を増やすことを検討するほか、出演依頼する際は、出演実績の少ない団体の掘り起こしに務める。 	H29	A	H30	A